

● 教室（診療科）の特色 ●

- ① 造血器腫瘍の診断、治療（外来化学療法を含む）
- ② 造血幹細胞移植
- ③ 貧血の診断、治療
- ④ 血小板減少症の診断、治療

当科の特徴として初診患者の多彩さが挙げられ、稀少疾患とされる造血器腫瘍や難治性造血障害などの高い専門性を要する疾患にとどまらず、地域での日常診療で見出された血液異常まで、幅広く経験する事ができます。また、もうひとつの大きな特徴として、症例数の豊富さが特記されます。DPCベースのデータとして、2020年度の非ホジキンリンパ腫の入院症例数はのべ538で、全国で第6位、近畿圏で第2位、大阪府下では第1位でした。内科専門医、血液専門医の取得に必要な血液領域の症例経験が容易に可能です。

白血病を中心とする血液疾患に対する治療法の変化はまさに日進月歩であり、以前では諦めていた疾患を治療できる時代になりました。将来の血液内科診療に対するニーズはさらに大きくなると考えられ、その担い手となる多くの若い方々の参加をお待ちしています。



秋岡 寿一（あきおか としかず）科長

■ 専門分野
血液内科学、造血器疾患

● 教室（診療科）指導医・上級医 ●

氏名（職 掌）	専 門	専門医資格	参加学会
横手耐治（講師（准））	造血器腫瘍、化学療法	血液専門医、総合内科専門医	日本血液学会
三好拓児（助 教）	造血器腫瘍、化学療法、造血幹細胞移植療法	血液専門医	日本血液学会

初期臨床研修プログラムの特徴

初期には指導医のもと血液疾患治療に必要な点滴ルート確保や骨髄穿刺、髄液検査などの手技や、患者さんへの病状説明の進め方など医師として基本となることの習得を目指します。

研修内容と到達目標

< 1年目 >

基本手技の習得
薬剤の使用法の習得
一般的な病状への対応の習得

< 2年目 >

血液疾患の知識の蓄積
血液疾患の治療法の習得

a 6ヶ月コース

外科系、内科系、マイナー系、緩和医療など、将来、悪性腫瘍診療に携わる医師を目指す臨床研修医に基本的な抗がん剤治療法を指導する。

b 2ヶ月コース

総合診療医を目指す、臨床研修医を対象に基本的な抗がん剤治療を指導する。

■連絡先：大阪医科薬科大学血液内科 TEL:072-683-1221
 ■ホームページ：<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/in1/hem/index.html>

指導体制

患者受け持ち医として臨床研修医、主治医、指導医と最低3名が担当医となり患者診療に当たる。

地方会、総会など学会発表、論文作成などを指導する。

評価方法

患者の立場になって、説明、診療ができることを最大目標として、コ・メディカルと協力し、患者が安心して納得できる医療を提供する医師を育成することをその達成目標とする。

週間スケジュール

月曜日	病棟業務、症例検討会
火曜日	病棟業務
水曜日	病棟業務
木曜日	病棟業務、科長回診、 骨髄採取、造血幹細胞移植
金曜日	病棟業務
土曜日	病棟業務、移植カンファレンス

後期研修プログラムの特徴

後期研修では、指導医と病状に応じた治療方針の決定や専門医習得のための知識の獲得が重要となってきます。このころより血縁および骨髓バンクドナーからの骨髄採取も担当していただきます。また、学内で一定期間経験を積んだ後、他大学や市中病院においてさらに研修を行いgeneral physicianとしての経験をさらに積み、学内とは異なった診療の進め方を学ぶ事も可能です。

その結果、血液内科学全般の知識と臨床能力および技術を修得することを通して、血液疾患全般にわたり診療することのできる血液専門医の育成を目的としています。

研修内容と到達目標

末梢血および骨髓標本の観察、評価の習得
 造血幹細胞移植を含め独立して治療方針を決定し、後輩の指導を行える人材の育成
 具体的には造血器悪性腫瘍、難治性貧血ほかの血液疾患患者の診療を通して基礎的知識・技能の習熟を期す

参加学会等

日本内科学会／日本血液学会
 日本造血細胞移植学会

取得できる認定医・専門医

内科専門医
 血液専門医

後期研修後にさらに研修を相談可能な施設

市立ひらかた病院 他

クリニカルインディケーター(臨床指標、初発入院症例)2021年度

収 集 項 目	データ
ホジキンリンパ腫	2人
非ホジキンリンパ腫	111人
急性骨髄性白血病	17人
急性リンパ性白血病	10人
骨髓異形成症候群	13人
多発性骨髄腫	7人
骨髄移植	5人
末梢血幹細胞移植	7件

大学院における教育・研究活動

免疫組織染色及びフローサイトメトリー検査を病院病理部と中央検査部の協力で行い、多発性骨髄腫における腫瘍細胞の細胞質内軽鎖の発現を検討し診断への応用を検討しています。さらに、血液検査及び免疫組織染色法にて、血液腫瘍細胞の各種サイトカインの発現を検討し、血液疾患の病態との関連性を研究しています。